

乳がん体験者コーディネーター

Know (≠No) More Cancer

BEC: Breast cancer Experienced Coordinator

養成講座第8期生募集要綱・実施要綱



平成24年7月6日開講

- 受講申込開始は平成24年5月7日より -

割引申込期間：平成24年5月7日～7月31日
通常申込期間：平成24年8月1日～10月31日

乳がん体験者コーディネーター養成講座は、
「オンデマンド・ウェブ・ラーニング・システム」を用いた
「日本を代表する講師陣」による
「いつでも」、「どこでも」、「最新のがん医療情報」を学ぶ養成講座です。
受講申し込みは、「<http://www.29-4153.com>」から。

養成講座実施責任者：NPO 法人がんサーネットジャパン 理事長 岩瀬 哲
養成講座実務責任者：NPO 法人がんサーネットジャパン 理事 川上 祥子
養成講座プログラムアドバイザー：東京大学大学院医学系研究科生物統計学 教授 大橋 靖雄
養成講座プログラムアドバイザー：美容ジャーナリスト（BEC 第3期認定）山崎 多賀子

実施要綱作成：NPO 法人がんサーネットジャパン
企画/運営：NPO 法人がんサーネットジャパン
企画協力/運営：株式会社日本医療事務センター・メディアサイト株式会社
後援/協力：NPO 法人日本臨床研究支援ユニット・NPO 法人日本メディカルライター協会
財団法人パブリックヘルスリサーチセンターJPOP 委員会 ONCOLOGY 部会

目次・・・(P2)

1. 乳がん体験者コーディネーター養成講座受講者の声 / FAQ・・・(P3)
2. 背景・・・(P5)
3. 目的・・・(P7)
4. 乳がん体験者コーディネーター養成講座受講資格・・・(P8)
5. 乳がん体験者コーディネーター養成講座概要・・・(P8)
6. 受講料・・・(P9)
7. 申込期間・・・(P9)
8. 前期講座受講申し込みから受講開始までの手続き【重要!!】・・・(P9)
9. 乳がん体験者コーディネーター養成講座（前期）概要・・・(P10)
10. 養成講座（前期）講義受講方法【重要!!】・・・(P10)
11. 乳がん体験者コーディネーター養成講座（前期）修了要件・・・(P10)
12. 乳がん体験者コーディネーター養成講座（後期）概要・・・(P11)
13. 乳がん体験者コーディネーター養成講座（前期）運営形態・・・(P11)
14. 乳がん体験者コーディネーター養成講座（後期）運営形態・・・(P11)
15. 乳がん体験者コーディネーター養成講座プログラムの評価・・・(P12)
16. 乳がん体験者コーディネーター養成講座実施責任法人及び代表者・・・(P12)
17. 乳がん体験者コーディネーター養成講座実施実務責任者・・・(P12)
18. 乳がん体験者コーディネーター養成講座プログラムアドバイザー・・・(P12)
19. 認定後の各種手続きと認定継続要件等・・・(P12)
20. 認定後の活動の可能性・・・(P12)
21. 乳がん体験者コーディネーター養成講座（前期）カリキュラム・・・(P13)
【引用参考文献・Website】・・・(P14)

1. 乳がん体験者コーディネーター養成講座受講者の声 / FAQ

受講生（養成講座プログラムアドバイザー）の言葉：BEC 第3期認定者 山崎 多賀子

*雑誌「STORY」等で活躍中の美容ジャーナリスト。著作に『「キレイに治す乳がん」宣言！』等。



乳がんを患い、右乳房全摘出、再建、抗がん剤、ホルモン療法と治療を続けてきた私が、乳がん体験者コーディネーターの勉強をしようと考えたのは、ある医師の言葉からでした。「乳がんを体験したからといって、誰もが患者さんをサポートできるわけではありません。正しい情報を知識として幅広く身につけることで、はじめて人の力になることができるんです」と。

本当にその通りだと思いました。私は病気を雑誌や本で公表したことで、乳がんについて相談や質問を受ける機会が増えました。雑誌や本の執筆のために取材をしていたので、そこそこ知識があるつもりでしたが、実際は明確に答えられないことが山ほどあったのです。その方の人生に関わること、誤った情報を流すわけにはいかない。知識は力であり、私は力不足である、と感じていました。そしてその医師から、日本でもこんな講座があるんですよ。とCNJの講座を教えていただいたのが受講のきっかけになりました。

実際に講義を受けてみると、本などで得た情報を曲解していたり、なるほど、そういう意味だったのか、と、ぼんやりしていた知識がクリアになるなど、得るものは大きかったです。また、標準治療法が生まれるまでや、社会、患者の変化など、乳がんとその周辺の全体像が見えてきたこと自信につながりました。もちろん受講したからといって、何でもどんと来い、というわけではありませんが、以前に比べても迷いなく患者さんの心の不安に対応ができるようになったと思います。そして、何より、自分の病気を深く正しく知ることは自分のリハビリに大いに役だっていると思います。

Q1. 乳がん体験者コーディネーター養成講座とはどんな講座ですか？

2007年6月閣議決定された「がん対策基本計画」には、「**今後は、基本計画に基づき、国及び地方公共団体、また、がん患者を含めた国民、医療従事者、医療保険者、学会、患者団体を含めた関係団体及びマスメディア等（以下「関係者等」という。）**が一体となってがん対策に取り組み、**がん患者を含めた国民が、進行・再発といった様々ながんの病態に応じて、安心・納得できるがん医療を受けられるようにするなど、「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんと向き合い、がんに負けることのない社会」の実現を目指すこととする。**」と言及されています。

異なる立場の方々が共同しこの目的を達成するためには、がんに対する一般的知識、その他がん医療情報に関する知識、及び最新の情報にアクセスするスキルは最低限の必要条件になります。

この講座は、これら異なる立場の方々の中で、乳がん体験者の立場でがん医療に関与するための「乳がん医療情報」に特化した養成講座になっています。

Q2. どのような方が受講されていますか？

2007年4月に第1期を開講し、以降7期まで、様々な立場の170名を超える方々に受講頂きました。

- ・乳がん体験を持ち、今後がん医療への関与を希望する方々
- ・がん患者団体等でピア（体験者）の立場として患者相談などの活動をされている方々
- ・医療機関に勤務する医療者（看護師・薬剤師・ソーシャルワーカーなど）で乳がん体験を有する方々
- ・乳がん患者（乳がん体験者）を持つ家族・遺族で、今後がん医療に関りを持ちたいと考える方々
- ・製薬企業で営業・開発・教育研修を担当している方々
- ・医療、社会保障、科学等を担当するジャーナリストの方々

Q3. 認定者は、どのような形で活動されていますか？

修了後はそれぞれの立場で、本プログラムで習得された乳がん医療情報の基本的知識、最新の情報へのアクセスのスキル等を活用頂いており、その他医療関連機関の要請に応じ、コールセンター、患者相談支援等での活躍が期待されています。

今後は、Q1の説明にもあるように、病院や公的機関だけでなく、民間企業等様々なところで、乳がん医療情報の基礎的知識を有する人材のニーズが高まると思われます。

Q4. 養成講座はどのような受講形態ですか？

乳がん体験者コーディネーター養成講座は、オンデマンド・ウェブ・ラーニング・システムによるインターネットを用いた養成講座となります。ご自宅・職場などで、LAN環境にあるPCがあれば「日本を代表する講師陣」による「最新のがん医療情報」の講義を、「いつでも」、「どこでも」、受講可能です。

※【受講者特典】※

CIN（がん情報ナビゲーター）・BEC（乳がん体験者コーディネーター）養成講座を申込頂いた方には、一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツが、NCI（米国国立がん研究所）から翻訳許諾を得て翻訳するNCI Cancer Bulletinの日本語版を、いち早く皆さんに配信します。

NCI Cancer Bulletinは、National Cancer Institute（米国国立がん研究所）より2週間毎に発行される、ホームページ上で公開される最近の「がん」に関する重要な論文・発表を紹介するオンライン情報誌です。

注：「NCI キャンサーブレティン日本語版」の翻訳に関しては、細心の注意が払われていますが、一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ及び、NPO法人キャンサーネットジャパンは、その正確性、安全性について保証するものではありません。同様に、翻訳文中にあるリンクに関しても、リンク先の情報を保証するものではありません。また、記事中に紹介される薬剤・治療法には、本邦における未承認薬、及び適応・用法用量外に関する情報も含まれていることをご留意頂き、これらの情報に基づき生じる一切の医療上の責任を負いません。なお、翻訳文の著作権は一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツに帰属します。

The image shows a screenshot of the NCI Cancer Bulletin Japanese website. The header includes the NCI logo and the text 'NCI キャンサー ブレティン NCI Cancer Bulletin'. Below the header, there is a section titled '海外癌医療情報リファレンス' and another section titled '特集記事'. The main content area lists several articles, including 'I-SPY2 乳癌臨床試験: 新薬の臨床応用を迅速化する' and 'I-SPY2 (Investigation of Serial Studies to Predict Your Therapeutic Response with Imaging and Molecular Analysis) 2 試験では、パクリタキセル、ドキシフルビン、シクロホスファミドを用いた標準的な前駆化学療法に併用する治療薬の投与が'.

2. 背景

乳がん体験者コーディネーター(BEC)養成講座 8 期は、これまで開講してきた 1 期～7 期の背景に加え、がん対策推進基本計画も 5 年目を迎え、後述する「今後は、基本計画に基づき、国及び地方公共団体、また、がん患者を含めた国民、医療従事者、医療保険者、学会、患者団体を含めた関係団体及びマスメディア等（以下「関係者等」という。）が一体となってがん対策に取り組み、がん患者を含めた国民が、進行・再発といった様々ながんの病態にに応じて、安心・納得できるがん医療を受けられるようにするなど、「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がん向き合い、がんに負けることのない社会」がより進められるため、がん対策推進に関わる関係者が知っておくべき「がん医療情報」、「がん医療環境」に特化した講座としております。

(1) 日本におけるがん医療環境と現状

直近の統計では、日本におけるがん罹患全国推計値は 676,075 人(2005 年)、また死亡者数は 344,105 人(2009 年)となっており、今後も増加が予測されている¹⁾。

一方、欧米、特に米国においては官民一体となった早期診断・早期治療の普及・啓発、臨床試験の普及・啓発・実施、それらから得られる標準的治療の普及により、死亡率に歯止めがかかり、乳がんなど特定のがん腫においては、死亡率の低下を達成している²⁾。

ところで、近年本邦では、乳がんは増加傾向にあり、女性のがん罹患率としては最も高く、このため社会の関心も高くなっている。乳がん患者は、乳がんという病名告知と同時に、その治療の過程において様々な決定を迫られる。乳がんの治療では、女性の象徴でもある乳房の喪失・変化を伴う可能性が高く、診断から早期治療決定の時期において非常に大きなストレス下におかれる。更に、種々の治療法の進歩により乳がんにおける無再発生存率は改善を見せているものの、手術療法・放射線療法・ホルモン療法・化学療法などに起因する副作用は、乳がん患者の QOL に大きな影響を与えている。加えて、主たる治療終了後、長期間に渡り再発の恐れと不安にも直面する事になる。

しかしながら、この 10 年の乳がん治療の進歩は目覚しく、前述した米国における再発率・死亡率の減少は、整備された臨床試験の実施と、それらの結果が迅速に各種ガイドライン等へ反映され、一般臨床に広く普及する事が寄与していると考えられている。一方、本邦においては、残念ながら未だそのような状況になっていないという現状がある。

本邦におけるこのような現状は、様々な要因に起因すると考えられるが、医療者向けのがん情報、国民・患者向けのがん情報を提供・共有するシステム構築の遅れが大きな要因の一つと考えられている。これらが近年本邦で問題となる科学的根拠に基づくがん医療（いわゆるガイドラインや標準的治療など）の普及を阻害し、がん医療の地域間格差を生じていると考えられる。結果的に、良質ながん情報にたどり着けない、実施されるべき治療にたどり着けないという「がん難民」を生み、医療消費者であるがん患者及び家族の満足度は低いものとなっている³⁾。

事実、本邦において全国統一のがん登録制度はなく、日常臨床下においてどの施設で、特定のがん腫に対し、どのような治療が実施され、どのような治療成績であるかを、共通の基準で比較検証する事は不可能であり、この点も科学的根拠に基づくがん医療（いわゆるガイドラインや標準的治療など）の普及を阻害する大きな要因の一つと言われている。

このような問題は、医療者の間においても指摘されており、向井らの報告によると、国立がんセンター東病院を受診した「乳がん遠隔転移・遠隔再発例」の 78 症例（2003 年 2 月から 2 年間）の「標準治療が的確に実施されたか」「実施された治療法が妥当であるか」についての検討では、45%の症例が「標準よりかなり外れる治療」「害をもたらす可能性のある治療」を受けていた⁴⁾。また、渡辺らによる山王メディカルプラザのセカンドオピニオン外来を、2003 年 9 月からの 2 年間に訪れた乳がん患者 175 名の評価においても、41%の患者が「標準的ではなく推奨できない」「標準治療ではなく患者は不利益を被っている」と報告されている⁵⁾。

(2) 近年のがん医療の変化

このような状況を鑑み、国家レベルの取り組みとしては、厚生労働省は国立がんセンターを中心とし、各都道府県にがん診療連携拠点病院の設置を進める他⁶⁾、2006年10月には医療者向け、患者向けの「がん対策情報センター」を開設し、「がん対策推進」を図っている⁷⁾。また、2007年4月からは、これらの問題解決を更に加速させる役割を持つ「がん対策基本法」も施行され⁸⁾、同年6月には「がん対策推進基本計画」も閣議決定されるに至った。一方、民間レベルにおいても、2005年5月大阪にて開催された「第1回がん患者大集会」をきっかけの一つとして、各地のがん患者団体・がん患者支援団体の活動も活発化している。

以上のような背景により成立した「がん対策基本法」の基本理念にもある「科学的知見に基づく適切ながんに係る医療を受けることができるようにすること」「がん患者の置かれている状況に応じ、本人の意向を十分尊重してがんの治療方法等が選択されるようがん医療を提供する体制の整備がなされること」を広く実現するためには、医療提供側・医療者のみの変革だけでなく、同時に患者が医療消費者として、信頼性の高い情報にたどり着き、情報を理解し、患者が主体的に治療を選択できる環境の構築も必要となる。実際に、がん診療連携拠点病院の相談支援センターに求められる重要な役割の一つとして、最上位に「各がんの病態、標準的治療法等がん診療に係る一般的な医療情報の提供」の項目が掲げられている。

(3) がん患者・家族・国民が置かれた環境

しかしながら、医療消費者として、患者が主体的に情報を入手し、治療法を選択する事は、種々の要因により大変困難な状況にある。これは、いかなる製品・サービスの中においても、提供側・需給側の「情報の非対称性」¹¹⁾が大きい場合に顕著に現れると言われており、まさに医療（特にがん医療）はこれに該当すると思われる。このような環境下においては、市場経済を例に取れば、逆選択（正しい選択ができない）、モラルハザードのリスクも生じると言われている。

米国を例に取れば、患者が良質ながん医療情報を得るために、種々のインフラが整備されている。国家レベルでは、米国がん研究所（National Cancer Institute）が提供するウェブサイトでは、医療者向け、患者向けのがん種毎の一般情報、病期毎の治療情報、その他有益な情報が提供されている¹²⁾。民間レベルにおいても、NCCN（National Comprehensive Cancer Network）においては、腫瘍毎のdecision treeを用いたガイドライン等が提供されている¹³⁾。更に、米国対がん協会（American Cancer Society）¹⁴⁾、Pan Can（Pancreatic Cancer Action Network）¹⁵⁾、Lance Armstrong Foundation¹⁶⁾などの、がん患者団体、がん患者支援団体においても、独自のがん情報の提供を行っており、米国対がん協会においては、24時間体制の電話・メールによる相談窓口（Cancer Information Center）も開設している¹⁷⁾。

加えて、前述した医療、特にがん医療においては、医療者側と患者間の「情報の非対称性」が大きい事、また個別性が高い事から、良質で信頼性の高い情報を提供するインフラの整備だけでなく、それらの情報を、医療消費者である患者に理解できる言葉・言語に翻訳する、すなわち通訳者の存在も重要と考えられている。腫瘍専門医、腫瘍専門看護師、腫瘍専門薬剤師などの専門職が多数活躍する米国においてさえ、患者・国民ががん医療情報について相談する窓口は、国家レベル・民間レベルにおいても用意されている。

一方、日本においては、2006年10月に「がん対策情報センター」が開設され日々情報が追加・更新されているものの情報の量・質共に、未だ十分なものとは言えない。また、がん関連学会編集による診療ガイドラインも、米国では全ての国民が最新のものに無償でアクセスできる環境であるのに対し、本邦においては有償での書籍販売であり、一般書店での購入も困難であるなど、その普及は十分とは言えない。又、これまでも問題となり各関係団体の整備は進んできているが、未だ認定がん治療専門医、専門看護師、薬剤師他は、あまりにも少ない上、患者・国民がアクセスできる相談窓口も、国家レベル・民間レベルにおいても十分整備されているとは言い難い状況にある。

また、急速なインターネットの普及により、がん患者・家族のアクセスが急増し、医療情報・がん医療情報の入手は容易になったものの、専門知識なく一般的な検索ワードを検索エンジンに用い調べる場合、その検索結果数は数十万から数百万という膨大なものであり、それらの情報についての重み付け、信頼性の評価はほぼ不可能に近いとあって良い状況にある。

(4) がん患者・家族が直面する問題

ところで、がん患者・家族が「がん」と診断され直面する問題は、3つに大別される。一つは、自身の治療上の決定における医療情報、各種治療の自身への影響、すなわち効果・有害事象（副作用）など体への影響、「Physical な問題」、2つ目は「がん」という診断に対する不安、治療の効果・有害事象（副作用）などに対する不安、生活・将来への不安などの「Mental な問題」、3つ目として、高騰化する医療費に関わる経済的な問題の他、医療制度に関する問題、すなわち「Practical な問題」である。

いずれも重要な問題であるが、「がん対策基本法」の理念である「科学的知見に基づく適切ながんに係る医療を受けることができるようにすること」、「がん患者の置かれている状況に応じ、本人の意向を十分尊重してがんの治療方法等が選択されるようがん医療を提供する体制の整備がなされること」を考慮すれば、患者・家族にとって最も重要な問題で解決される問題は、1のPhysical な問題であると思われる。

(5) がん対策推進の取り組み

厚生労働省においては、がん診療連携拠点病院にて、これら種々の問題に対応する患者・国民向けの「相談支援センター」の設置を求め、各がん診療連携拠点病院で「相談支援センター」が機能するよう「相談支援センター相談員講習会」等が実施されるに至り、また、民間レベルにおいても当法人などが実施する養成プログラムを初め複数の試みも始まっているが、官民共にその質と量において、未だ十分とは言い難い状況にある。

前述した「がん対策基本計画」には、「今後は、基本計画に基づき、国及び地方公共団体、また、がん患者を含めた国民、医療従事者、医療保険者、学会、患者団体を含めた関係団体及びマスメディア等（以下「関係者等」という。）が一体となってがん対策に取り組み、がん患者を含めた国民が、進行・再発といった様々ながんの病態に応じて、安心・納得できるがん医療を受けられるようにするなど、「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がん向き合い、がんに負けることのない社会」の実現を目指すこととする。」と言及されている。すなわち、これまで行政、医療者主体で進められてきた「がん対策推進」に、がん患者を含めた国民他、様々な立場の団体・関係者が関与するよう求められている。

今後、がん患者・家族のニーズに応じた「がん医療対策」を進める上においても、また実際に、がん患者・家族が求め、提供されるべき医療情報・サービスを提供するためにも、医療者のみならず、「がん対策推進」に関する者が、「各がんの病態、標準的治療法等がん診療に係る一般的な医療情報」等についての知識を有する事は必要最低限の要件となると思われる。

このような背景を考慮すると、乳がんを体験し、克服した患者・家族は、様々な点において、今後発症する乳がん患者・家族にとって、有益な情報源・候補者となると思われる。実際に、米国を始め、先進諸国においては、がんを克服した患者を「Cancer Survivor：キャンサーサバイバー」と呼び、尊敬を集める存在となり、加えて乳がん早期診断と早期治療の啓発者として活躍している。

そこで2007年4月、NPO法人キャンサーネットジャパンでは、患者・家族のニーズに応えるべく、民間レベルにおいて、信頼性の高い、科学的根拠に基づいた、その時々における良質で信頼性の高い乳がん医療情報を提供し、かつそれらの乳がん特有の医療情報等を患者の言葉にし、伝えることのできる「認定乳がん体験者コーディネーター」の人材養成講座をスタートさせるに至った。

3. 目的

乳がん診断され直面する問題（主として乳がん医療情報に関する問題）を、解決できる・あるいは解決に導く既存の信頼性の高い情報にアクセスし、提供できる人材を養成する。「認定乳がん体験者コーディネーター」は、乳がん医療情報（治療法他に関する情報）に特化したものとする。

本養成講座により「認定乳がん体験者コーディネーター」を養成・輩出し、国が掲げる「がん対策推進」に寄与し、日本における民間組織（NPO法人）の役割を果たし、これをもってがん医療へ貢献することとする。

4.乳がん体験者コーディネーター養成講座受講資格

- ・主たる治療（手術・放射線療法・薬物療法など）を終了した乳がん体験者
 - ・乳がん患者を持つ成人家族
 - ・その他 NPO 法人キャンサーネットジャパンが認める者等^注
 - ^注 「認定乳がん体験者コーディネーター」に求められるものは、信頼性の高い乳がん情報にアクセスし、乳がん患者の立場に立ち情報を提供する能力であり、原則的に、受講者の資格・バックグラウンドは重要でないと考えており、志しあるその他の者についての門戸も開かれている。
 - ・インターネット及び E-mail（携帯電話は不可）使用、E-mail による Word・PDF ファイル等添付送受信が可能な環境があり、代表的な検索エンジン（Yahoo など）が使用でき（あるいは、受講前までにこの条件を満たす事ができる）、受講前に本養成講座のオンデマンド・ウェブ・ラーニング・システム^注が利用可能で、且つ、以下のいずれかに該当する者とする。なお、事務局からの事務連絡は原則として、すべて E-mail の一斉配信で行われる。但し、Gmail、Yahoo mail 等のフリーメールをご使用の方は、事務局からの連絡が迷惑メールフォルダ、ごみ箱等に振り分けられる事例があり、この点ご注意ください。
- ^注 ウェブ・ラーニング・システムが利用可能かどうかは、[後記の URL で既にアップロードされているコンテンツが問題なく再生可能である事を確認すること。](#)

CNJ がん情報ビデオライブラリー <http://www.cancernet.jp/video/index.html>

本養成講座では、受講者に対する個別のパソコン環境、動作環境に関する問い合わせには対応できませんので、上記の通り、受講前に必ずコンテンツが再生可能であるかどうかの確認をすること。以下は、ウェブ・ラーニング・システムに必要なパソコン環境の情報である。

Mediasite 5.0 から Macintosh は、代わりに Safari と Firefox での視聴が可能です。Windows PC および Macintosh とも Safari、Firefox、Chrome 等のブラウザを使用する場合はマイクロソフトの Silverlight をインストールする必要があります。マイクロソフトのサイトからダウンロードするか、以下のキャンサーネットジャパンの URL (<http://www.cancernet.jp/video/index.html>) よりインストールして下さい。

ビデオは以下のパソコン環境でご覧下さい

- 回線速度：350kbps 以上
- OS / 【Windows の場合】 2003, 2008, XP, Vista, Windows7 【Macintosh の場合】 Mac OS 10.4.8 以降
- ソフトウェア / ブラウザ: 【Windows の場合】 Internet Explorer 6.0 SP1 以降、FireFox2.0 以降、Google Chrome 1.0, Windows Media Player9 以降。【Macintosh の場合】 Safari 2.0.4 以降、Firefox 2.0 以降 ※Macintosh の場合あるいは Windows で Internet Explorer 以外のブラウザを使用する場合は Microsoft Silverlight1.0 以上が必要です。
- ハードウェア / CPU: Pentium4 800MHz 以上 または PowerPC G3 以上 メモリ: 512MB 以上 (Vista の場合は 1GB 以上)

5.乳がん体験者コーディネーター養成講座概要

本講座は、全 20 コマで構成される Web ラーニングと修了試験から構成される「乳がん体験者コーディネーター養成講座（前期）」と、前期で学習した知識を活用するための実践的少人数学習プログラム、「乳がん体験者コーディネーター養成講座（後期）」から構成されます。前期・後期すべて修了した方が、キャンサーネットジャパンが認める「乳がん体験者コーディネーター」と認定されます。

前期講座のみ受講し、修了試験に合格された方は、「乳がん体験者コーディネーター養成講座修了生」となります（前期修了のみでは、「認定」とはなりませんので、ご注意ください）。

（1）乳がん体験者コーディネーター養成講座（前期）修了基準

前期修了試験に合格することが、前期講座修了要件となります。前期修了試験の受験資格は、全 20 コマの講義の視聴と、オリエンテーション・ラップアップを除く 18 コマのレポート提出です。

(2) 乳がん体験者コーディネーター養成講座（後期）について

乳がん体験者コーディネーター養成講座（前期）修了者は、前期で習得した系統的知識、乳がん医療情報の扱いを実践に活かすための演習を主眼とした養成講座（後期）の受講資格を得ます。

後期プログラム修了者をNPO 法人キャンサーネットジャパン認定乳がん体験者コーディネーターとし、認定証を発行します。

(3) 乳がん体験者コーディネーター認定までの流れ

養成講座（前期） すべての講義視聴とレポート提出 → 前期修了試験受験 → 合格 → 養成講座前期修了 （修了証を発行いたします）	⇒	養成講座（後期） 1) Web 講義 3 コマ視聴とレポート提出 2) ケーススタディ・ロールプレイ（1日、対面） 3) 全体発表 → 認定乳がん体験者コーディネーターとして登録
---	---	---

6. 受講料（消費税込み）

(1) 乳がん体験者コーディネーター養成講座（前期）受講料

割引申込期間 (平成 24 年 7 月 31 日まで)	通常申込期間 (平成 24 年 10 月 31 日まで)
¥80,000-	¥90,000-

但し、5名以上で受講申し込みを行う場合は、受講料の優遇制度を適応致しますので、事前に株式会社日本医療事務センター ニック教育講座までメールにてお知らせ下さい（メール：kyouiku@nicj.co.jp）。

【NEW !!】BEC1 期～7 期既受講生・修了生に対する受講料特典

既に、BEC 養成講座の 1 期～7 期を受講・修了された方々に対する受講料特典制度です。各領域における最新情報のキャッチ・アップにご利用下さい。また、本講座を受講された方は、BEC 認定継続要件を満たすものとします。なお、申し込み期間による割引は適用しません。

	BEC2 回目の受講	BEC3 回目以降の受講
受講料	¥45,000 (正規料金の 50% off)	¥22,500- (正規料金の 75% off)

(2) 乳がん体験者コーディネーター養成講座（後期）受講料（登録料、登録管理料 3 年分含む） 50,000 円（ただし、後期講座は、前期講座を修了した方のみが申し込み可能です）。

7. 申込期間

・割引申込期間：平成 24 年 5 月 7 日～7 月 31 日 ・通常申込期間：平成 24 年 8 月 1 日～10 月 31 日
 前項の通り、割引申込期間（平成 24 年 7 月 31 日まで）と、通常申込期間（平成 24 年 8 月 1 日～10 月 31 日まで）は、受講料が異なりますので、ご注意下さい。

8. 前期講座受講申し込みから受講開始までの手続き【重要!!】

(1) 申し込み方法

前項 7.の申し込み期間内に、株式会社日本医療事務センターホームページ、あるいはファックスにてお申し込み下さい。

ホームページ <http://www.29-4153.com> ファックス番号 03-3526-6519

なお、申し込み時に支払い方法を選択頂きます。支払い方法は、一括払いと分割払いの選択が可能です。
 一括払い：郵便局の窓口、または最寄りのコンビニエンスストアで支払い。
 分割払い：学費ローン（3・6・10・12 回払いから選択可能）。

(2) 受講申し込み受付

申し込みを頂いた方には、「開講通知」、「受講料の支払い案内・振込用紙（あるいは学費ローン申し込み用紙）」を郵送します。また、オンデマンド・ウェブ・ラーニング・システムを受講頂くための「受講ID」と「パスワード」を発行します。

(3) 受講料支払い方法

郵送された「振込用紙」に従い、お支払い下さい。以上で申し込み手続きは完了です。

(4) 受講開始

後述する受講方法に基づき、受講を開始して下さい。

9. 乳がん体験者コーディネーター養成講座（前期）概要

原則 60 分/1 講義を 1 コマとします。オリエンテーション、ラップアップを含む全 20 コマから構成され、13 ページのカリキュラム一覧のスケジュールに沿って、Web 上にアップされます。

開講（受講）期間は、平成 24 年 7 月 6 日～平成 24 年 11 月 30 日で、この間は何度でも視聴することができます。視聴レポートの提出締め切りは、平成 24 年 11 月 30 日となりますので、ご注意ください。

10. 養成講座（前期）講義受講方法【重要!!】

(1) 受講環境の準備

パソコンをインターネットに接続し、以下の URL にアクセスして下さい。

<http://cancernet.jp/bec.html>

(2) BEC8 期バナーをクリック

<http://cancernet.jp/bec.html> の画面上に表示される BEC8 期のバナーをクリックして下さい。受講ログイン画面へ進みます。ログイン画面では、「ユーザー名」と「パスワード」が求められます。「ユーザー名」には、事前にお知らせする「受講者アカウント」を、「パスワード」には「受講者パスワード」を入力します。「ユーザー名」、「パスワード」を入力完了後、「ログインボタン」をクリックして下さい。講義視聴画面が表示されます。

(3) 講義資料（PDF）のダウンロード

- ①はじめに講義視聴画面の各講義の「Links」をクリックして講義資料のタイトルを表示させて下さい。
- ②講義資料のタイトルをクリックすると「ユーザー名」と「パスワード」の入力画面が表示されます。
- ③講義資料のタイトル下（または横）に記載されている講義資料ダウンロード用の「ユーザー名」と「パスワード」を入力して下さい。PDF データが表示されます。

(4) 講義の視聴

講義視聴画面の講義名のタイトルをクリックし、視聴を開始して下さい。

11. 乳がん体験者コーディネーター養成講座（前期）修了要件

本講座の修了要件は、修了試験に合格することです。

修了試験の受験資格は、オリエンテーションを含む全 20 コマの受講（視聴）と、オリエンテーション・ラップアップを除く 18 コマのレポート提出（Word ファイル E-mail 添付にて提出）です。なお、講義視聴履歴の管理、及び責任は受講者各自に委ねられます。

■乳がん体験者コーディネーター前期修了試験概要

この修了試験は、「科学的根拠に基づく医療情報」、「信頼性の高い医療情報」にアクセスし、回答を得る能力を確認する試験です。インターネット環境で、ご自宅での受験が可能です。

■修了試験の日程

テスト配信日時 平成 24 年 12 月 7 日（金）正午
 解答提出期限 平成 24 年 12 月 9 日（日）正午

■合否判定

本試験の合否基準は、「科学的根拠に基づく医療情報」、「信頼性の高い医療情報」にアクセスし、回答を得る能力のみであり、受験者間での相対評価、事前の合格者数の設定は行なっていません。また、合否に関する個別の問い合わせ、合否基準に関する問い合わせには対応致しません。

■修了証

認定試験合格者には、乳がん体験者コーディネーター前期修了証を発行致します。なお、修了試験不合格で、再受験を希望する場合は、次クール（9 期）以降の受験が可能です。合否発表は、平成 24 年 12 月 17 日（月）を予定しています。

12. 乳がん体験者コーディネーター養成講座（後期）概要

後期講座は、平成 25 年 1 月～3 月を予定しており、詳細は、平成 24 年 10 月頃に前期講座受講生にお知らせいたします。内容は、下記を予定しています。

（1）Web 講義

- ①がん医療を取り巻く各職種と BEC に期待される役割、Must do 5、Must not do 5
- ②患者支援と法律
- ③コミュニケーション・スキル

（2）ケーススタディー・ロールプレイ

各 1 回、同日午前・午後実施。個別スケジュール調整にて、東京・大阪での開催を予定。5～8 名程度の少人数で実施。平日・土日含む数日の候補日を設定し、調整する。

（3）全体発表・修了式（東京での開催）

講座（前期・後期）受講を振り返り、全体を通じて学んだこと、反省点、要望点などに加え、今後の活動の展望について、各自 5 分程度の発表を行い、全員で学びをシェアリングする。日程未定。

注：（2）、（3）の開催地については、東京・大阪以外にも、受講生が 5 名前後集まる事が可能な場所（開催地）が調整できる場合、地方での開催も考慮致します。第 6 期では、相良病院（鹿児島）様（<http://www.sagara.or.jp/index.html>）の申し出を受け、同病院での出張後期プログラム開催をいたしました。開催場所の提供を考慮頂ける方・病院・クリニック様については、CNU 事務局 BEC 問合せ先（info-bec@cancernet.jp）までお知らせ下さい。

13. 乳がん体験者コーディネーター養成講座（前期）運営形態

- ・企画/運営：NPO 法人がんネットワークジャパン
- ・企画協力/運営：株式会社日本医療事務センター・メディアサイト株式会社
- ・実施要綱作成：NPO 法人がんネットワークジャパン

14. 乳がん体験者コーディネーター養成講座（後期）運営形態

- ・企画/運営：NPO 法人がんネットワークジャパン
- ・企画協力/運営：メディアサイト株式会社
- ・実施要綱作成：NPO 法人がんネットワークジャパン

15. 乳がん体験者コーディネーター養成講座プログラムの評価

養成講座のプログラム評価は、NPO 法人キャンサーネットジャパンのアドバイザリーボードメンバー、及び外部有識者により養成講座クール（期）毎に検討することとします。

16. 乳がん体験者コーディネーター養成講座実施責任法人及び代表者

NPO 法人キャンサーネットジャパン 理事長 岩瀬 哲

17. 乳がん体験者コーディネーター養成講座実施実務責任者

NPO 法人キャンサーネットジャパン 理事 看護師 川上 祥子

18. 乳がん体験者コーディネーター養成講座プログラムアドバイザー

東京大学大学院医学系研究科生物統計学 教授 大橋 靖雄
美容ジャーナリスト（BEC 第3期認定）山崎 多賀子

19. 認定後の各種手続きと認定継続要件等

乳がん体験者コーディネーター養成講座後期修了者は、NPO 法人キャンサーネットジャパン認定乳がん体験者コーディネーターとして、NPO 法人キャンサーネットジャパン内「BEC/CIN 認定継続フォローアップ委員会」に登録頂きます。

当委員会は、認定者の認定継続と質の管理、フォローアップのための研修・情報発信等を行います。認定は3年間の更新制となり、3年間で下記、＜認定継続に必要なポイントの内容について＞に定める認定継続要件である15ポイント以上の活動を必須とします。認定者の継続学習や認定継続に関する窓口は、全てこの委員会が行います。3年経過後の更新時には15,000円の更新料を申し受けます。

＜認定継続に必要なポイントの内容について＞

1. 継続学習の機会への参加
 - *自己申告によるシンポジウム・セミナーへの参加 1ポイント
 - *CNJが推薦するイベント、委員会が企画する研修会参加 2ポイント
 - *CNJが推薦するがん関連学会 3ポイント
2. 相談活動（ケースレポート1件につき） 3ポイント
3. 講演等の啓発活動 3ポイント

20. 認定後の活動の可能性

本養成講座を受講され、修了・認定された方々は、ご自身の仕事の中で、またはボランティア活動や患者会活動において、本プログラムで習得されたがん医療情報の基本的知識、最新の情報へのアクセスのスキル等を活用頂いております。

更に、NPO 法人キャンサーネットジャパンが企画・運営する各種セミナー・プログラム（「CNJ がん情報ステーション」、「CNJ がん医療セミナー」、「外部研修プログラム」など）での活動、あるいは民間企業、自治体等によるがん医療啓発活動での講演などでも活躍されています。



21. 乳がん体験者コーディネーター養成講座（前期）カリキュラム

※担当講師は変更される場合があります。変更の際はホームページ等で案内致します※

セット	講義	公開日	講義 予定時間	科目	担当講師
1	1	7月6日	40	BEC養成講座オリエンテーション	キャンサーネットジャパン 川上 祥子
	2		60	インターネットを使ったがん医療情報の収集	東京大学医学部附属病院 後藤 悌
2	3	7月20日	60	がんの治療戦略概要：手術・放射線・化学療法など	東京大学医学部附属病院 後藤 悌
	4		60	がんにおける臨床試験と生物統計	国立がん研究センター 山本 精一郎
3	5	8月3日	60	がんにおけるEBMとガイドライン	日本医科大学武蔵小杉病院 勝俣 範之
	6		60	乳がんの原因と予防について	国立がん研究センター 山本 精一郎
4	7	8月17日	60	乳がんの検診と診断の進め方	湘南記念病院 土井 卓子
	8		60	乳がんと診断されたら・初期治療を受けるにあたって	湘南記念病院 土井 卓子
5	9	8月31日	60	乳がんの病理	日本大学医学部附属板橋病院 増田 しのぶ
	10		60	乳がんの手術	聖路加国際病院 山内 英子
6	11	9月14日	60	乳房の再建	埼玉医科大学総合医療センター 三鍋 俊春
	12		60	放射線治療について	放射線医学総合研究所 唐澤 久美子
7	13	9月28日	60	ホルモン治療について	京都大学 佐治 重衡
	14		60	がん薬物療法について	国立がん研究センター中央病院 清水 千佳子
8	15	10月12日	60	治療後の診察と検査/転移・再発した時	神奈川県立がんセンター 清水 哲
	16		60	がん医療におけるサイコオンコロジーとは？	埼玉医科大学国際医療センター 大西 秀樹
9	17	10月26日	60	がん医療における緩和ケア（主として疼痛緩和）	東京大学医学部附属病院 岩瀬 哲
	18		60	がんに対するサプリメントなど代替療法	早稲田大学 大野 智
10	19	11月9日	60	BEC養成講座（前期）総括講義：知っておくべき乳がんの知識	帝京大学医学部附属病院 池田 正
	20		60	前期プログラムラップアップ	キャンサーネットジャパン 川上 祥子

【引用参考文献・Website】

- 1) がん対策情報センターホームページ
<http://ganjoho.ncc.go.jp/public/statistics/pub/statistics01.html>
- 2) Berry, D. A. et al. N Engl J Med 2005;353:1784-1792
- 3) 第1回がん患者大集会ホームページ <http://www.daishukai.net/main.html>
- 4) 向井博文. 国立がんセンター東病院を受診した「乳がん遠隔転移・遠隔再発例」の78例（2003年2月からの2年間）を対象に、標準治療が的確に実施されたか、実施された治療法が妥当であるかについて検討。「乳癌の臨床」2005年10月
- 5) 渡辺亨. 山王メディカルプラザのセカンドオピニオン外来を、2003年9月からの2年間に訪れた乳癌患者175名の評価。「死の臨床」06年9月
- 6) 厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/topics/2006/02/tp0201-2.html>
- 7) がん対策情報センターホームページ <http://ganjoho.ncc.go.jp/>
- 8) がん対策基本法 <http://law.e-gov.go.jp/announce/H18H0098.htmls>
- 9) がん対策推進基本計画 <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/06/s0615-1.html>
- 10) http://ganjoho.ncc.go.jp/hospital/consultation/program01_qa.html
- 11) 「情報の非対称性」に関する論文
<http://www.si.gunma-u.ac.jp/~nakajima/10kinen.pdf#search='%E6%83%85%E5%A0%B1%20%E9%9D%9E%E5%AF%BE%E8%B1%A1%E6%80%A7'>
- 12) 米国国立がん研究所ホームページ <http://www.cancer.gov/>
- 13) 米国 NCCN (national Comprehensive Cancer Network) ホームページ <http://www.nccn.org/>
- 14) 米国対がん協会 (American Cancer Society) <http://www.cancer.org/docroot/home/index.asp>
- 15) 「パンキャン」ホームページ <http://www.pancan.org/> 米国すい臓がん患者団体
- 16) ランス・アームストロング財団ホームページ
<http://www.livestrong.org/site/c.jvKZLbMRIsG/b.594849/k.CC7C/Home.htm>
- 17) 米国対がん協会 (American Cancer Society) がん相談コールセンターホームページ
http://www.cancer.org/docroot/ESN/content/ESN_3_1X_ACS_National_Cancer_Information_CCenter.asp?sitearea=ESN